

(別添)

# 次期森林計画についての森林管理署の検討方向

## — 目 次 —

1. 現行計画の概要
  - (1) 国有林野の管理経営に関する基本的な事項
  - (2) 国有林野の維持及び保存に関する事項
  - (3) 林産物の供給に関する事項
  - (4) 国民の参加による森林の整備に関する事項
  
2. 次期計画の検討方向
  - (1) 管理経営上の課題
  - (2) 計画内容

佐賀森林管理署

# 1. 現行計画の概要(平成28年4月1日～令和3年3月31日)

- ・ 佐賀東部森林計画の対象は、県南東部に位置し、8市4郡(8町)からなる159,534haの地域で、脊振山地区、金立山地区、杵島山地区、経ヶ岳地区から形成される国有林野10,122haとなっています。
- ・ 当該計画区内の国有林は、佐賀県内全森林面積の15%に当たり、天然林が32%、人工林が68%(6,875ha)を占めています。
- ・ 森林の種類は普通林が14%、制限林が86%となっており、制限林のほとんどが保安林であるが、その内水源かん養保安林が97%を占めています。
- ・ 杵島山地区の唐泉山山頂には天然記念物に指定されているスタジイを主体とした天然林があり、温帯林の保護を目的とした植物群落保護林に設定されています。



# (1) 国有林野の管理経営に関する基本的な事項

## ① 機能類型に応じた管理経営

国有林野の管理経営に関する基本計画に即して、開かれた「国民の森林」に向けた取組を推進するため、個々の国有林野を重点的に発揮すべき機能に応じて、5つの機能類型に区分し、それぞれの発揮すべき機能に応じて管理経営を行っています。

機能類型区分(面積)	機能類型区分の考え方	目指すべき森林の姿
山地災害防止タイプ (3, 465ha)	山地災害の防止及び土壌保全機能の発揮を重視	根や表土の保全、下層植生の発達した森林
自然維持タイプ (164ha)	原生的な森林生態系や希少な生物の成育・生息する森林など属地的な生物多様性保全機能の発揮を重視	良好な自然環境を保持する森林、希少な生物の育成・成育に適した森林
森林空間利用タイプ (256ha)	保健、レクリエーション、文化機能の発揮を重視	保健・文化・教育的利用の形態に応じた多様な森林
快適環境形成タイプ (18ha)	快適な環境の形成の機能を発揮を重視	騒音の低減や大気の浄化など、人の居住環境を良好な状態に保全する役割を持つ森林
水源涵養タイプ (6, 218ha)	水源の涵養の機能を発揮を重視第一とすべき森林	人工林の間伐や伐期の長期化、広葉樹の導入による育成複層林への誘導を図る森林であり、森林資源の有効利用にも配慮



## ② 森林の流域管理システムの下での森林・林業再生に向けた貢献

県・市町等との密接な連携を図るとともに、組織力・技術・資源を活用し、民有林経営の支援等に積極的に取り組めます。



(更新伐箇所の民国連携に向けた現地検討)



(神崎市脊振地域森林整備推進協定運営会議)

民有林と国有林が隣接する神崎市及び(独)森林総合研究所森林農地整備センター佐賀水源林整備事務所と「森林共同施業団地」を設定し、関係者が連携して路網整備や森林整備を行い、スケールメリットを生かした作業の低コスト化や安定供給体制の強化に取り組んでいます。

### ③ 森林・林業再生を牽引する人材育成に向けた取組

民有林と国有林のフォレスター等が連携して活動するための取組を進めています。



(フォレスター打合せ会議)



(国有林生産現場での現地検討会)

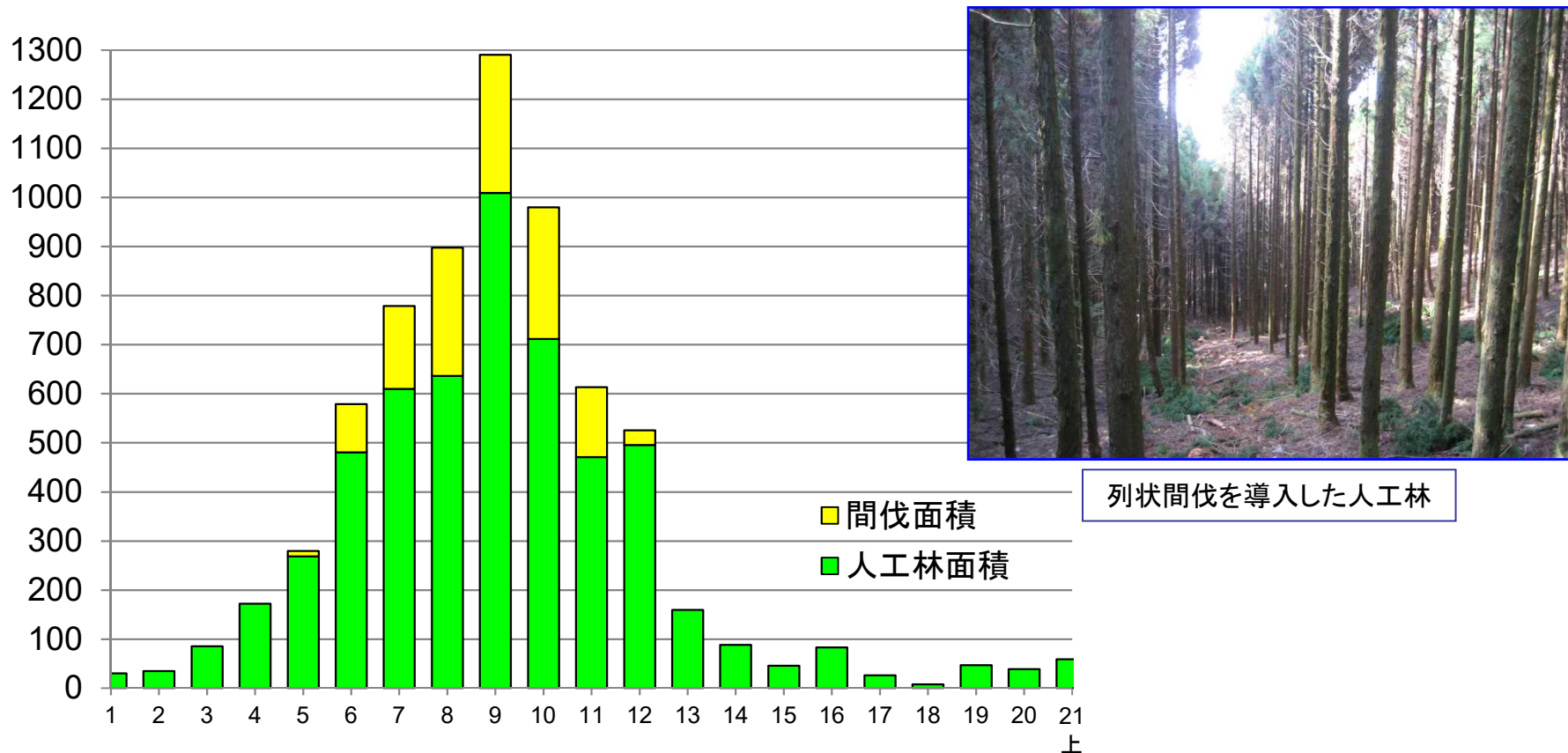
国有林のフィールドを活用した現地検討会やフォレスター打合せ会議等を開催し、林業施策等の情報交換やスキルアップを図る取り組みを進めています。



#### ④ 地球温暖化防止に向けた積極的な間伐等の推進

本計画区の人工林の面積は約6,875haで、林齢16年生から60年生の人工林の面積は約6,117ha（人工林面積の約90%）です。

また、現行計画（H28年度～R2年度）では間伐を約1,725ha計画しており、森林吸収源対策のためにも間伐を推進しています。



注：1年齢級は1～5年生を表します。

## (2) 国有林野の維持及び保存に関する事項

### ① 生物多様性の保全(保護林)

本計画区には貴重な天然林等が多数存在しており、これらについては保護林を設定し、適切に保護・保全を図っています。

種類	名称	特徴等	面積ha
希少個体 群保護林	唐泉山	スタジイの遺伝資源を保存する。	9.87
	九千部山	温帯性の希少な植物群落の維持を図り、併せて森林施業・管理技術の発展、学術研究に資する。	86.74
	脊振山	温帯林の代表的天然林を保護し学術研究等に資する。	4.58



脊振山ブナ等希少  
個体群保護林

九千部山ブナ等希少  
個体群保護林

唐泉山スタジイ遺伝資源  
希少個体群保存林



## ② 国民生活の安全・安心の確保に向けた効率的・効果的な治山事業の展開

安全・安心の確保に向けた効率的・効果的な治山対策に取り組んでいます。



佐賀県鹿島市の本城地区等をはじめとする流域内で発生した山地災害箇所や流木対策箇所等について、民国が連携して早期復旧工事を実施しています。



木材を利用した「木製校倉ダム」や「木柵工」や「木製残存型枠」の工法を積極的に取り入れ、木材利用の推進に取り組んでいます。



### (3) 林産物の供給に関する事項

#### ① 高効率・低コストな作業システムの定着

伐採、造林等の事業の実施の効率化を図りつつ、健全な森林を整備するとともに、木材の需要動向や木材産業の状況等を的確に把握しつつ、国有林材の安定的な供給を推進しています。



誘導伐実行箇所



コンテナ苗

森林作業道



列状間伐箇所

帯状伐採による誘導伐箇所を中心に、コンテナ苗による密着造林での造林コストの削減に取り組んでいます。

簡易で崩れにくい路網の整備と列状間伐により林業生産コストの削減を図っています。



#### (4) 国民の参加による森林の整備に関する事項

##### ① 国民参加の森林づくりと森林環境教育の推進

国有林野をフィールドとした国民参加の森林づくりを推進しています。

「法人の森林」での除伐作業



「海の森」での下刈り作業

「遊々の森」での森林教室

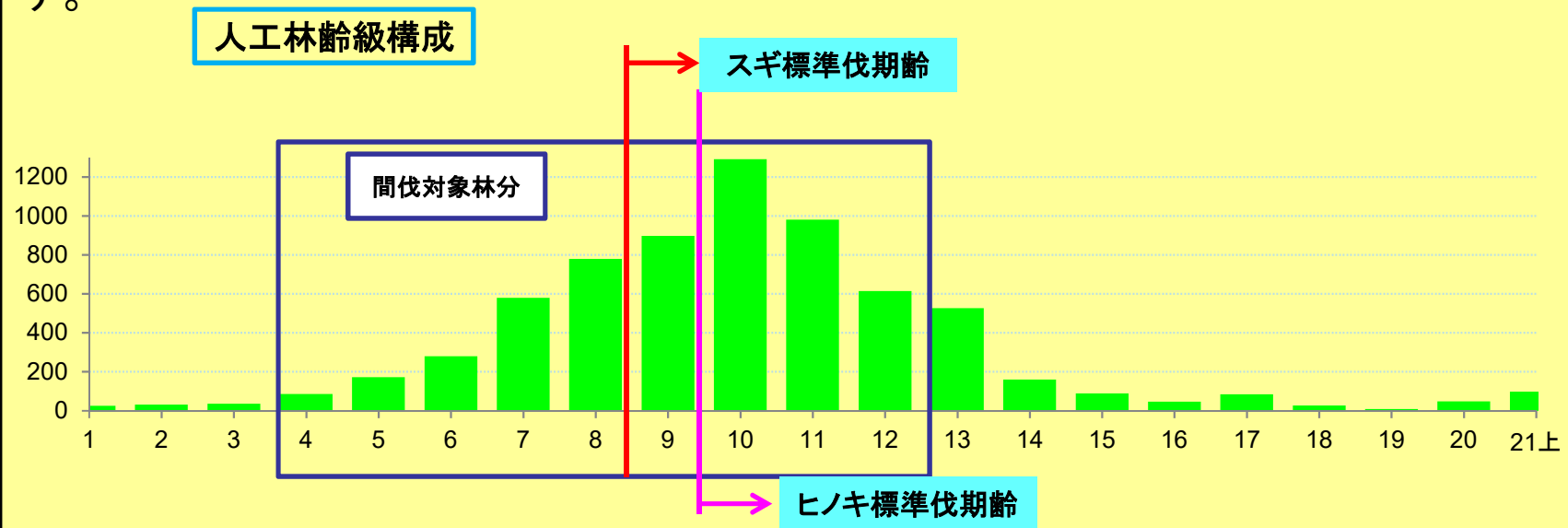


夢みるこども基金との「遊々の森」により、継続的な林業体験活動の場を提供し森林環境教育の推進に努めるとともに、鹿島市との分収造林契約による「海の森」による国民参加の森林づくりの推進や公益財団法人ニッセイ緑の財団等との「法人の森林」により、森林づくりに参加・協力したいという企業の要請に応じています。

## 2 次期計画の検討方向（令和3年4月1日～令和8年3月31日）

### (1) 管理経営上の課題

- ・ 本計画区の国有林野が有する水源涵養機能や保健文化機能等の公益的機能の発揮を高めていく必要があります。
- ・ 次期計画においても間伐対象となる16年生から60年生の人工林の割合は85%と現行計画と同程度であり、健全な森林づくりのほか森林吸収源対策の上からも引き続き間伐を推進する必要があります。
- ・ 将来的に均衡がとれた齢級構成に移行させることに配慮しつつ、主伐とその後の再造林を計画的に推進し、森林資源の循環利用を行うことにより、森林の有する多面的機能の持続的な発揮を図るとともに、森林吸収源対策にも貢献する必要があります。



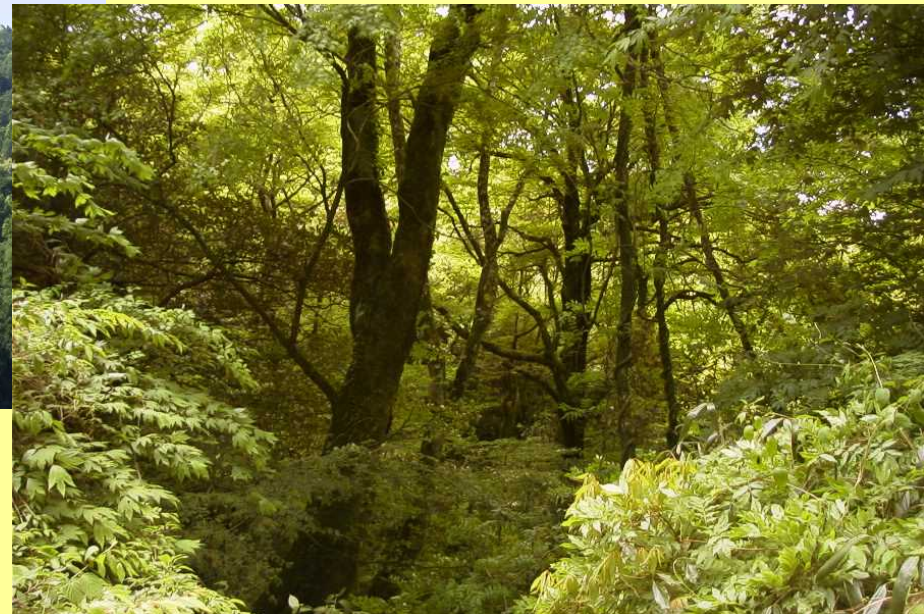


- ・ 森林病害虫等に強い多様な森林の造成を立地条件に応じ推進していく必要があります。
- ・ 本計画区には各種保護林を設定しており、これらの国有林野を適切に管理していく必要があります。



唐泉山スタジイ遺伝資源希少個体群保護林

脊振山ブナ等希少個体群保護林





- ・ 国民参加による森林づくりに関する問い合わせや相談が増加していることから、これらの要請に適切に応えていく必要があります。



とす  
さわやか自然の森  
法人の森林



夢みる子ども基金の森  
遊々の森

- ・ 国産材の安定供給を実現するため、林業専用道や森林作業道の整備を進め、高性能林業機械を利用した生産システムのコスト縮減と生産性向上を進める必要があります。



春日金立山58林道

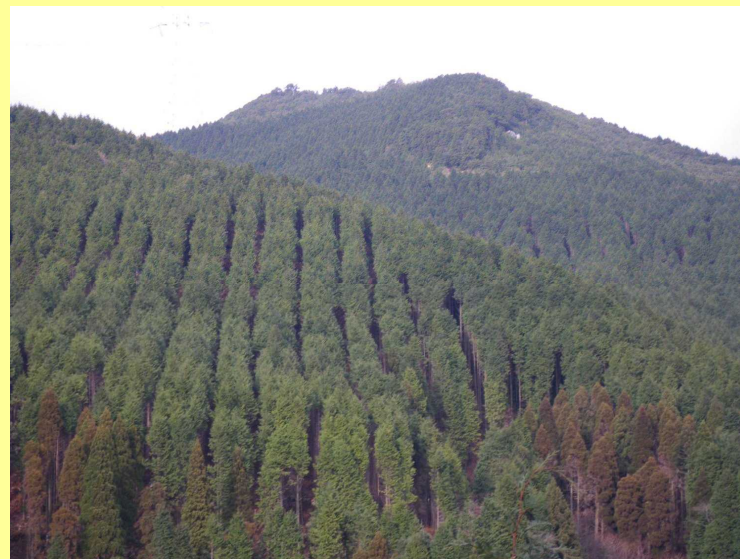


高性能林業機械での間伐





森林作業道



列状間伐箇所遠望

- ・ 造林コストを縮減するため、コンテナ苗による密着造林での植付を進める必要があります。
- ・ 国有林のフィールドを活用し、民間が連携した林業技術者の育成を推進する必要があります。
- ・ エネルギー原料としての利用等新たなニーズに応えるため、これまで利用してこなかった林地残材等の利用を進めていく必要があります。
- ・ 国民が安全・安心に暮らせる環境づくりに向けて、治山対策に取り組む必要があります。



## (2) 計画内容

- ・ 公益的機能の維持増進を旨とする管理経営を行うとの方針の下、多様で健全な森林の整備・保全を行うほか、森林吸収源対策として引き続き間伐を推進するとともに、将来的に均衡がとれた齢級構成に移行させることに配慮しつつ、主伐とその後の再造林を計画的に推進する方向です。
- ・ 生物多様性の保全を推進する観点から、環境に十分に配慮した森林施業、森林の保護・管理に努める方向です。
- ・ 貴重な植物種の保護を目的とする保護林については、状況の変化に対応した見直しを行い、生物多様性の保全に配慮した、簡素で効率的な管理体制を再構築する方向です。
- ・ 生産システムのコスト縮減と生産性の向上を図るため、林業専用道や森林作業道の路網整備を推進するとともに、主伐期に達した人工林の一部において、モザイク的に小面積伐採(誘導伐)し、コンテナ苗による植付を図るなど、林業のトータルコストの低減に取り組む方向です。

- ・ 民有林と国有林が連携した「森林共同施業団地」により、将来の円滑なる木材の輸送や計画的な森林整備を目指す方向です。
- ・ 民有林と国有林の森林総合監理士(フォレスター)等が連携して活動するための、林業施策等の情報交換や継続的なスキルアップを図る取組の支援を推進する方向です。
- ・ 社会貢献活動として森林づくりに参加・協力したいとする企業等の要請に応えるため、「分収林」制度を活用して、森林整備を推進する方向です。
- ・ これまで利用されてこなかった林地残材等の有効利用を図るため、これらを含む国産材のシステム販売に努める方向です。
- ・ 民有林と連携して効果的な治山事業の実施に取り組むとともに、地域住民と協働して災害を減らす対策を進める方向です。